

寿小学校沿革の概要

1 学制頒布まで

鉢伏山麓の牛伏川を中心としたこの地方の扇状地は、昔より人々が居住していたらしく、赤木山あたりから時々発掘される縄文弥生土師時代のそれぞれの出土品を見ても、そのことが推定される。

古くから埴原の牧（中山）が開かれ、ついで北牧南牧が開かれたのであるがこれが今の北内田南内田である。当時すでに京都の文化をもちこんでいたらしい。古い文献によれば、地方が歴史に名を出してくるのは土師期の時代である。その頃、良田郷・宗賀郷・辛犬郷等六郷があったが、この良田郷は塩尻・片丘・広丘・中山・寿・芳川辺までの地区を言い、今の広丘吉田（よい田の意）が中心であったと言われている。牧場の経営には高度の技術と財貨を要したらしく、この技術をこなし得たものは高麗からの帰化人であったろうと言われている。公卿が衰微して荘園時代となり、この地方は諏訪上社荘園に属した。ただし小池のみは下社らしく、百瀬は判然としない。仏寺についてもこの地方は早くから恵まれていた。牛伏寺は大寺として重要な地位を占め地方住民の信仰の中心でもあった。片丘七寺寿六寺も多くは鎌倉時代に建立されたもので歴代将軍の仏教信仰もあり、地方豪族もこれにならったので一山それぞれ整い地方文化の担い手でもあった。これが徳川時代に入って次第に民衆の間にも学問文化の芽を育て、明治初年の初等教育にひきつぐよすがとなったのである。明治維新の折松本藩の烈しい廃仏毀釈にも、この地は諏訪藩、高遠藩であったためかその難をまぬがれた。

大化の改新以後、京都より公卿が来征統治したが、武家時代は小笠原氏が信濃守として長く治めていた。後石川数正八万石にて入封、今の松本城を築く。時を経て、戸田康長元和3年10月（今から約370年前）高崎より七万石にて入城、前領主より壺万石減じているが、この壺万石は、松本領筑摩郡よりとり、諏訪領高遠領に分属させた。各五千石にて諏訪領を東五千石、高遠領を西五千石と称した。五千石街道の名はこの時より生まれた。

諏訪領東五千石十三か村

中挾・熊野井・内田・埴原・赤木・小池・百瀬・瀬黒・竹淵・白川・白姫・神田・和泉

高遠領西五千石十三か村

針尾・小野沢・西洗馬・岩垂・小曾部・今井・古見・大池・小坂・竹田・和田・本洗馬・太田

明暦2年諏訪忠晴の弟が分家したので東五千石の中壺千石を諏訪兵部頼蔭に、壺千石を弟諏訪右エ門頼久に与えた。頼蔭は埴原及び和泉・白姫の一部を、頼久は内田・赤木・小池・神田及び和泉・白姫の一部を領することとなったが、寛文12年に御領地替があり、頼久には、竹淵・上下瀬黒・白川及び百瀬の北半分を与えた。したがって南百瀬・内田・赤木・小池・神田及び和泉・白姫の一部は再び本領となった。頼蔭を埴原の殿様、頼久を百瀬の殿様とよぶ。頼久ははじめ、内田に知行所をおいたが、後百瀬に御陣屋役所をおいて治めていた。それより約二百有余年徳川の治下にあった。明治維新を迎え版籍奉還とともに旧分家領は伊那県となり、ついで本家領も高島県となったが、明治4年の廃藩置県とともに筑摩県管下に入り、明治9年にはさらに長野県と合併その統轄下に入るようになった。

信州教育（特に初等教育）が、明治維新後盛んとなり全国でもその名を知られるようになったのは寺子屋にその端を発しているといわれる。すでに平安時代からあったとされているが江戸時代には最もその普及が広まり、庶民教育の基礎となった。寿地区寺子屋師匠には次のような人がいた。

赤木村

米山市右エ門・古屋権左エ門・上条友弥
青木新兵衛・青木利兵衛・栄賢和尚

小池村

正木時之・草間弥五兵衛・森鎮左エ門
林与右エ門

白川村

平岡清三・白川東翠・純喜齋

百瀬村

百瀬忠左エ門



白川東翠先生の碑



純喜齋先生の碑

瀬黒村

浅田銀兵衛・百瀬丈右エ門・加藤重平
吉田秀仙

明治5年8月の学制頒布により、寺子屋は次第に姿を消し寺子は公立小学校へ移ることになった。当地区の寺子屋も明治6年末までに殆んど閉鎖されてしまった。その数は13といわれている。

2 明治初年の概要

明治5年の学制頒布により、6年9月には筑摩県布告を以って寺子屋廃止の令を出し、11月には、各村に、「学校設立伺」を提出させ、その設立をすすめる。各村に次の学校が設立された。

- 励智学校（明治6年11月設立）
東五千石組白川村瓊林院
- 白姫学校（明治6年11月設立）
東五千石組白姫村弥勒堂
- 上瀬黒学校（明治6年11月設立）
東五千石組上瀬黒村上瀬黒堂
- 下瀬黒学校（明治6年11月設立）
東五千石組下瀬黒村
- 竹測学校（明治6年11月設立）
東五千石組竹測村地藏堂
- 赤木学校（明治6年11月設立）
東五千石組赤木村弘長寺
- 小池学校（明治6年11月設立）
東五千石組小池村旧寿小屋堂
- 百瀬学校（明治6年11月設立）
東五千石組百瀬村正念寺

教員数及び教員給・生徒数・授業料・学校経費・元資金等設立伺に記載された通りには行なわれておらず「教則」も十分でなく寺子屋同然の旧態たるものであった。

この年全国に大小区制が敷かれ、寿旧九カ村は筑摩郡第五大区第三小区となった。翌7年より8年にかけて各村の合併が盛んに行われ、第三小区は豊丘村となった。

○ 益智学校（南校）

・明治7年1月 南の赤木小池連合して、赤木弘長寺内に益智学校を創立する。学区は第二大学区、第十七番中学区、校名は百四十六区、第百十番小学益智学校となる。尋常小学上等八級下等八級（各級六カ月を以って卒業八級より一級になる）のうち下等八級をおく。教科は主として読書算に重き

をおく。学校元資金として赤木1,200円、小池800円を積立てる。年間経費は約300円を見込む。

- ・明治8年2月 下赤木神社境内の側に地をトシ益智学校の新校舎建築に着手し、両村よりの学校世話役工事を監督し、7月上棟式10月6日開校式を挙げる。敷地450坪、校舎坪数68坪75、茅葺平屋建て、すぐれた設計



益智学校
明治7年学校創設の赤木・弘長寺

と入念の施工により総工費869円を要した。学区は第二大学区第十七番中学区第四十二番小学益智学校となる。

- ・明治9年6月 筑摩県庁焼失、長野県へ合併。学区及び校名変更。第六大学第十八番中学区第八十六番小学赤子学校となる。生徒数、八級（32人）七級（22人）六級（15人）五級（12人）四級（10人）三級（7人）計97人（文部年報・明九・八調）。
- ・明治12年1月 大小区制は廃され長野県は十六郡となり、新たに「教育令」により学区番号も郡毎



赤子学校 下赤木神社境内 益智学校
明治8年新築 校名変更 赤子学校

の区域となり、小学赤子学校となる。教科は次のようなものであった。（下等八級）修身・作文・地理・歴史・算術の初歩・及び体操（教育令による野画・唱歌・体操のうち、体操をとる）。

- ・明治13年6月 明治天皇信濃路御巡幸を村井にて奉迎する。
- ・明治16年 豊丘村三カ村に分村（小赤・豊丘・白瀬測）。
- ・明治18年 分村した三カ村と中山連合して戸長役場を白川の瓊林院におく。学校整理の県令により戸長行政区は一学区となる。
- ・明治19年 学区改正のため東筑第二十一番学区となり、豊丘に本校を、小赤・埴原・二山にそれぞれ支校をおく。

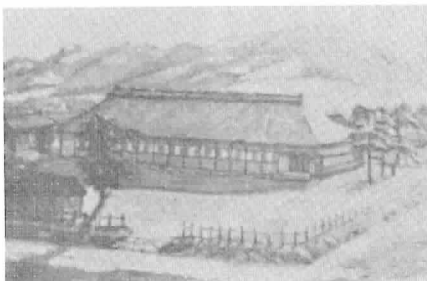
小学校令公布により、豊丘学校本校支校とも尋常科（四年）高等科（四年）のうち尋常科（四年）をおく。これは義務制となる。

小赤支校は一ヵ年の温習科をおく。

- ・明治21年 高等小学区域改正一郡一校となる。
- ・明治22年 新市町村制実施となり、聯合村を解き中山は独立し、小赤・豊丘・白瀬淵は再び合併して新しく寿村となる。
- ・明治23年 校名は新村名を附して北・寿尋常小学校、南・小赤支校となり、学区番号はなくなる。一郡一高等小学制廃止。
- ・明治25年 寿尋常小学校に高等科併置を認められる。
- ・明治26年 北寿尋常高等小学校・南寿尋常小学校となり、南では尋常小学卒業のものに特に温習科を設けたが生徒少なく廃止となり志あるものは内田の高等小学校に進学する。
教科は修身・読書・作文・習字・算術・体操・唱歌・裁縫（女子）女子のため別に裁縫専修科を設ける。

○開盛学校（北校）

- ・明治7年4月 北の竹測・上下瀬黒・白川・白姫・百瀬・南百瀬連合して白川河原に新築工事を起し10月竣工。第二大学区第十七番中学区四十一番小学校開盛学校を創立する。小学校教則下等八級をおく。は



開盛学校 明治7年創設

- はじめはやはり読書算に重きをおく。元資金1,500円、年間200円位の経費による運営を目ざしたが、建築費その他約1,000円、年間経費も約500円を要した。
- ・明治9年 筑摩県庁を焼失したため長野県と合併。学区変更とともに校名も変更し第六大学区第十八番中学区第八十五番小学豊丘学校となる。下等八級をおく。生徒数は八級（46人）七級（13人）六級（17人）五級（21人）四級（14人）三級（5人）計116人（文部年報明九・八調）。
- ・明治12年1月 東筑九十番小学豊丘学校となる。
- ・明治13年6月24日 信楽村平田に明治天皇御巡幸奉迎。
- ・明治15年4月 小学教則定められ、豊丘学校初等科

（三年）六級、中等科（三年）六級だけをおき、その上の高等科（二年）四級はおかず、学務委員等の努力あれども就学率思わしくなかった。

- ・明治16年5月 豊岡村三ヵ村に分村。（小赤・豊丘・白瀬淵）
- ・明治18年 分村した三ヵ村と中山併合して戸長役場を白川の瓊林院におく。
- ・明治19年 戸長行政区は一学区となる小学校令公布。東筑第二十一番小学区となる。豊丘学校を本校とし尋常科四年義務制。
- ・明治22年 新市町村制実施となり中山村独立、三ヵ村再合併して寿村となり、寿尋常小学となる。南に小赤支校。
- ・明治26年 北寿尋常高等小学校（竹測・百瀬・上下瀬黒・白川・白姫一学区）、南寿尋常小学校（赤木・小池一学区）となり、北に補習科を認可され設置されたが生徒数少なく、後火災にあい廃止となる。女子のため裁縫専修科を設けたが生徒数比較的多く毎年60人を下らなかった。
高等科設置とともに校舎狭隘となり正念寺（百瀬）、生蓮寺（竹測）も借用する。

- ・明治28年 北寿尋常高等小学校校舎新築、建築費3,130円98銭。
- ・明治29年 新校舎火災にあい全焼。生徒は高等科他町

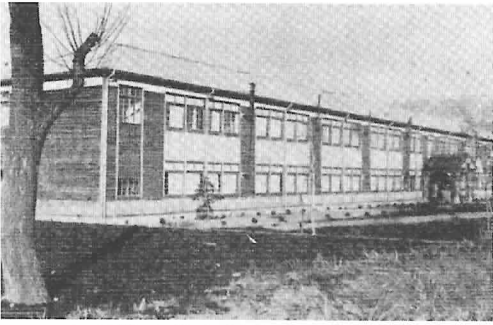


北寿尋常高等小学校
明治28年建設 明治29年焼失

- 村へ委託。尋常科は民家借用、南寿にも分ける。
- ・明治30年 高等小学校廃止。規模を縮めて北寿尋常小学校として再出発する。

3 現在地に移ってから

- ・明治33年 南北寿尋常高等小学校を合併することとなる。
現在地へ新校舎新築工事着工。寿尋常高等小学校。
- ・明治34年 旧北校舎新築落成。
正念寺仮校舎及び南校より新校舎へ移転。
免状授与式を庭で行う。女子補修学校設立。
- ・明治35年 旧西体位置に体操場、校舎北側に公仕室等落成。
男子補修学校設立。男女統合。



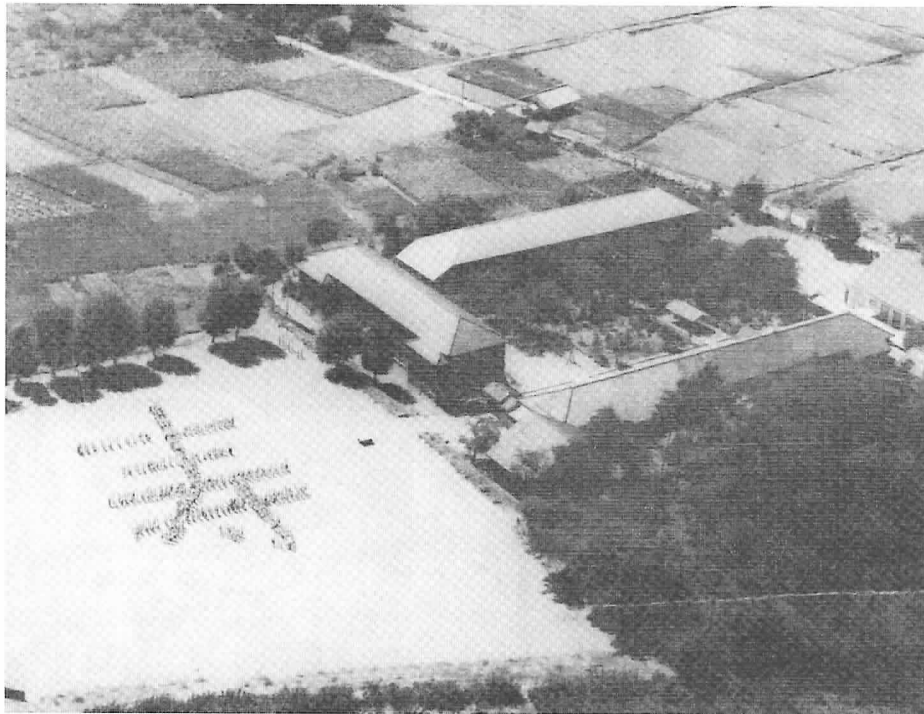
寿尋常高等小学校 明治33年新築

- 明治36年 児童昇降口落成。新築記念式執行。
- 明治39年 村内より庭樹寄贈される。
- 明治43年 東校舎落成。



東校舎 明治43年新築

- 大正3年 南校舎（旧中校舎）落成。
- 昭和3年 新校舎（旧中校舎西半分）・新運動場完成。
- 昭和10年 寿青年学校設置。
- 昭和16年 村立寿国民学校。
初等科六年、高等科二年、義務教育八年となる。
- 昭和22年 寿村立寿小学校。
六・三制実施・義務制中学校三年。
- 昭和24年 寿中学校廃止。筑摩野中学校発足。
- 昭和25年 給食室建築。
- 昭和28年 北校舎改築。
- 昭和29年 松本市立寿小学校。
- 昭和30年 体育館完成（旧西体）。
- 昭和33年 渡廊下落成式。
- 昭和35年 北内田松本市に合併。学童寿小に編入。
- 昭和36年 プール完成。
東校舎改築（旧中校舎東半分）。
- 昭和41年 新校舎完成（旧南校舎）。
- 昭和45年 旧体育館竣工。
- 昭和49年 寿小開校百周年記念式典。
寿小改築促進委員会結成。
- 昭和56年 新校舎完成・落成記念式典。



昭和の初めから昭和30年代に至る校舎全景

